



1. 本部港について

本部港(本部地区)は、昭和50年に開催された沖縄国際海洋博覧会に際し、大型客船の接岸バースとして、また、那覇や伊江島からのホーバークラフトの連絡港として整備された。瀬底島の対岸となる本部町崎本部地区に位置し、地方港湾及び産業拠点港として位置づけられています。

本港からは、伊江島への定期フェリーが1日4便就航しており、伊江島への交通に欠かせない施設です。

また、那覇～鹿児島航路の大型船が毎日朝夕2回入港することに加え、外国からの石炭船や国内の砂・砂利運搬船等の貨物船も利用するなど、北部の物流拠点としての機能も担っています。

さらに、H29年に「国際旅客拠点形成港湾」に指定され、本部港を国際クルーズ拠点として整備していく方針です。

2. 整備計画地について

既存ターミナルは、主に伊江島への定期フェリー及び那覇～鹿児島経路の大型フェリー一乗船者が利用しています。

設計の対象施設については既存ターミナルを利用している団体旅行者(修学旅行者等)を対象とし、配置を計画しております。



3. 屋根付き便利施設の整備について

(1) 現況

離島における生活物資の供給には、その多くがフェリーや高速船で海上輸送されています。加えて、乗客のトランク等の大型手荷物は船舶の乗降時の安全性、効率性の確保や客席スペースに限りがあるためコンテナに積み込み輸送しています。

コンテナ等に積み込まれた生活物資・大型手荷物は港に到着後岸壁の背後の荷捌き施設にて荷捌きされ、その後住民や乗客が各々コンテナの中から荷物を引き取る状況となっています。

しかし、既存荷捌き施設では、コンテナ等の占有面積が大きく、軒外で荷捌きや荷物の引き取り作業を行っています。炎天下や雨天時の荷捌き、貨物の引き取りに支障をきたしており、利用者に不便を強いている状況です。

(2) 整備目的

上記現況を踏まえ、住民や乗客など施設利用者が荷捌き、貨物の引取・一時的な保管及び待機を天候に左右されず安全・快適に行うことのできる屋根付き便利施設を整備することで、港湾利用者の安全性・快適性の向上及び離島地域の振興を図ることを目的とします。

(3) 整備条件

施設整備には、以下を整備条件とします。

① 施設規格

延床面積：450 m²以上

構造：耐用年数、メンテナンス費用が鉄骨造と同等以上

階数：平屋建て

高さ：フォークリフト・コンテナに対応する高さ(3.7m)以上

② 施設機能

- ・荷捌き施設として乗客が手荷物をコンテナへ積み込むスペース
- ・団体旅行客(修学旅行生等)の待機するスペース

③ 必要条件

- ・フォークリフトの作業を考慮し、床面はフラットとする
- ・バリアフリーに配慮すること
- ・点検作業とライフサイクルコストに配慮すること
- ・港の景観に配慮すること

④ 施設整備費

- ・工事費は70,000千円以内(諸経費、消費税を含む)とすること。



(4)整備位置

屋根付き利便施設の配置は、参考図の赤色部分とし、(3)必須条件を満たす屋根付き利便施設をご提案下さい。

○参考図

